

『これからの電気工事業界について』 — バブル期以降の世代として思うこと —

静岡県電気工事工業組合 理事

技術・広報委員 掛川支部 鈴木 通之

私が電気工事業に携わるようになり、20数年が過ぎました。

私は父親の後継ぎとして当たり前のように電気工事の業界に入りました。

就職したのは1988年バブル景気の真っ最中、好景気に沸き、東京の建設現場は24時間体制で工事が進み、懸命に仕事をこなす毎日でした。私はアパート住まいでしたが、現場に寝泊りする毎日がほとんどでした。

1991年頃バブル景気が終了し、微妙な景気感が漂い始めましたが、バブル期に計画された建設工事は相変わらず進行し、「次の現場は5年計画の現場だよ」と内示を受け、精神的にも体力的にも限界を感じていたこともあり、結婚を機会に退職し静岡に戻りました。若干遅れで静岡の景気も下降線となり、とどめのリーマンショックを迎え今のような景気になったのは皆さんも同様に感じていることだと思います。

私自身、静岡に帰って東京時代と業務内容が変わり戸惑いながらも毎日を送っていましたが、景気の良かった先代（父親）の考え方とぶつかることも多く、悶々とした日々を送っていました。

色々と不満を抱えながら、電気工事の仕事に将来性を見いだせず、常に逃げ道を探している毎日でしたが、平成17年年父親が引退し自分が社長として会社を切り盛りする立場になり、少しずつ考え方も変化し前向きに進めるようになりました。

現在電気工事屋さんの多くは建設会社の下請けとして工事を行うことが多いと思います、不景気に伴い請負金額は下がり続け、原価割れの工事も多いのではないかと思います。

そんな中で私のような二代目経営者は将来性や目標が見つからないながらも、毎日を忙しく過ごしています。

高度成長期やバブルの時代のような、「頑張っただけの報酬や地位、規模の拡大、新しい機材や技術を導入しさらなる発展をしていく」等といった夢はなかなか持てないのが現実ではないかと思います。

私は何のために働いているのか？

もちろん第一は「家族」を養うためです。

他には？と聞かれると答えに詰まります。

社員の為？もちろん大切です、家族も含め生活費を稼ぐ場所として私の会社を選び、毎日頑張っって汗水流しながら、休日出勤や長時間労働にも耐え現場を完成させているのですから。でもそれだけ？もっと言えば自分の家族を養うのが第一だったら「経営」ではなく自分も「会社員」として働けば良かったのでは？と思っていた時期もありました。

二代目として与えられた立場を受け身で過ごしていた自分もまもなく50才。20代30代の人からすれば中堅の立場に見えることでしょうか。最初は父親と二人でやっていた個人商店も社員10数名を抱え10年前では考えられないような大きな仕事も施工出来るまでに成長しました。ここ数年は新卒採用も行い近い将来の人材育成も行っています。機械も更新し人的にも設備的にも投資をしているのですが苦しい経営はなかなか変わっていきません。

「はあ～やめたい…」と思うこともしょっちゅうです。でももう出口はないんです。前に進み続けるしか道は無いと思っています、その先に絶対に成功した自分が存在しているはずだと信じて頑張っています。

毎日頑張っている、若しくはちょっと腐った気持ちで毎日を過ごしている若手の皆さん、私のような同業経営者は敵じゃないです、同じ境遇で頑張っている仲間だと思ってください。今の状況を解決する糸口が仲間の中に必ずあるはずで、一緒に頑張りましょう。

そして先輩の皆さん、私たち二代目経営者を支えてください。

これからもよろしくお願いします。



燕岳（長野県）山頂にて